

学校に通う価値

2学期に入り、いい意味では自分らしく、別の意味では適当に、学校生活を送っていませんか？行事だけでなく、普段の学校生活においても自分の役割に責任をもって取り組みましょう。週直、給食当番、清掃当番、教科係・常任委員など、一人ひとりがいろいろな役割を果たしています。便利な学校生活を送れることは幸せですね。

自動ではないから身に付く

最近のトイレは、開く、流す、閉まるまで自動でしてくれます。家庭にも増えてきて、新1年生には学校で「トイレは終わったら流す」ということから教えるそうです。そんな便利な「自動的」にしてくれる機械が身近な世の中ですが、学校内はそうではありません。黒板を消すにしても、廊下をふくにしても、トイレのスリッパをそろえるにしても、常に誰かが動いてないと学校生活は過ごせないのです。

例えば体育祭や音楽コンクールを思い出してみてください。準備から片付けまでスムーズにプログラムが進行できるのは、決められた役割を一人ずつ果たしているからです。

学校は「自動的」なことが何一つありません。ですが不便とは思いません。その訳は、自分の役目を果たし、次どう動くべきか皆が考えているからです。この力はインターネット内では身に付けられない、まさに学校に通う価値だと思います。

体育大会に向けて

新型コロナウイルス感染拡大防止と熱中症対策により、今年度のプログラムや取り組み内容は縮小・制限されますが、保体委員を中心に要項や選手を決定しています。9／1（火）から練習が始まります。体育の授業もあると、水分が足りなくなることもあります。十分な水分・栄養・睡眠と体操服・タオルなどの衛生的な準備を心がけましょう。

- ・夏用体操服（名札を忘れずに）で参加する。帽子をできるだけ着用する。
- ・スポーツドリンクを、ペットボトルではなく水筒に入れて持参してもよい。
- ・タオルや肌着の着替えを持ってくるなど、衛生面で工夫する。
- ・体調がよくない場合は、朝や練習前に必ず担任に申し出る。

「正平調」写し文章力を磨く

7月発行の神戸新聞・週刊まなび一の記事を紹介します。高砂市の公立中学校3年生女子が「耳不自由でも電話可能に」という見出しで、耳の不自由な人でも手話通訳を介して電話できる「電話リレーサービス」について書いた記事（下記参照）が掲載されました。彼女がこの題材にした理由は「東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、外国人や障害のある人など、誰もが安心してコミュニケーションをとることができる社会になってほしいし、自分もそれを心がけたかったから」と力強く答えていました。彼女は新聞の1面のコラム「天声人語」や「正平調」などを毎週1時間以上書き写すことを通じて文章力を磨いてきたようです。14歳にもかかわらず、日々の積み重ねによって、新聞記者のような記事を書けるようになりました。尊敬します。国語の読解力や数学の文章題などに課題がある人は、マネをするのもいいかもしれませんね。

耳不自由でも電話可能に

政府がインターネットのテレビ電話の映像などを活用し、耳の不自由な人でも手話通訳を介して電話できる「電話リレーサービス」を共同で運営する計画を始めたことが明らかになった。いつでも利用可能、一般の電話と同程度の料金を目指す。数年内の提供開始を視野に入れ、バリアフリー化の実現につなげる。

総務省・厚生労働省の共同作業部会近くまとめる報告書案に盛り込む。国内の聴覚や音声の障害者は35万人前後に推定されるが、日本は先進7カ国で唯一、国が電話リレーの制度を整えていない。政府はできるだけ早期のサービス開始に向け、関連する法令の改正やサービスのシステム開発を進め、実用可能な部分から導入したい考えだ。

聴覚障害者がテレビ電話機能を利用する専用サイトで通訳オペレーターは手話や文字でやりとり。音声通訳・健聴者に同時に通訳しながらやりとりする。

の改正やサービスのシステム開発を進め、実用可能な部分から導入したい考えだ。

聴覚障害者がテレビ電話機能を利用する専用サイトで通訳オペレーターは手話や文字でやりとり。音声通訳・健聴者に同時に通訳しながらやりとりする。

24時間365日利用でき、料金は通訳サービスの追加負担なしに固定電話や携帯電話と同水準とするよう検討を進める。利用するには、電話会社など民間企業に申し込む必要がある方向だ。課題となる事業費は、電話の利用者から広く薄く負担金を徴収する制度の創設を含めて議論する。

緊急通報への対応も目指すほか、健聴者から聴覚障害への発信をできるようにしたい考え。無料通信アプリなどと異なり、双方が同じサービスを使う必要はない。飲食店の予約や公共機関への連絡にも使える。

現在日本財団が試験的に電話リレーを提供しているが、早朝や深夜は使えず、10番などの緊急通報もできない。国が制度化し、安定的に使える環境を整える。

手話通訳介しネットで通話

電話リレーサービス 数年内に国制度化

電話リレーサービスのイメージ

電話リレーサービス 意図は、電話を使えない聴覚障害者のために、インターネットのテレビ電話による手話通訳を介して健聴者と通話できるようにする仕組み。日本では一部の団体や企業が提供しているが、先進7カ国で唯一、国が制度化していない。通訳費用や字庫の確保が難しく、国による整備を求める声が上がっている。米国のオーストラリアは通訳事業による基金を活用し、運用する仕組みを法制化している。

☆保護者の皆様へ☆

延期されたウィンドブレーカーの採寸を8／26（水）15：30より行います。もしお子様のサイズが心配でしたら、遠慮なく北校舎1F多目的スペースへ直接お越しくください。